

# ニーズレター

発行日 2019年7月26日  
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

夏号



半夏生(7月2日)

.....

## もくじ

○ 理事長巻頭言	2
○ 総会報告	3
○ 利用者の声	4
○ 新人ホームワーカーのあいさつ	7
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8

## 理事長巻頭言

### 利用者支援についての職員体制の充実

理事長 細谷 要一

集中豪雨で大変な状況の九州。一方、今年の讃岐は過去最も遅い梅雨入りで、今のところ雨量も多くないようですが、適度な雨量で梅雨明けになって欲しいものです・・・。

先日は、皆様のご協力によって総会を終えることができました。感謝申し上げます。事業計画案の中で、一部体裁の不備がありご迷惑をおかけしましたが、新年度は「地域の障害者支援関係団体」との関係作り、連携を構築することによって、より利用者への支援の充実を図りたいと考えています。

すでに、一昨年から臨機に始めていました、理事がグループホームの現場に入っ  
て行う「サービス管理責任者へのサポート」を、今年度から運営委員会役員も加  
わってホームワーカーに対しても拡大しました。目的は、これまでのホームワ  
ーカー・サービス管理責任者のみの現場体制を人的に拡大することによって、より一  
層利用者ニーズへの対応力を向上させるためです。各グループホームに順次月1回  
づつ（4か所へ訪問、合計4回）巡回する方法で、ホームワーカーへの相談・支援  
を個別に行います。ひとり職場であるホームワーカーには、月2回の会議を持って  
課題の共有や意見交換を続けてきましたが、今年度から、そのうち1回を巡回に  
あてることに変更しました。

昨年の「ニーズレター」にお伝えしていましたが、グループホーム運営の補助金が  
2018年度から6.2%減額された件につきましては法人の運営には大きな負担に  
なってきました。そこで、「事務所の移転(今年4月)」によって家賃支出を半減さ  
せることができましたが、給与関係については苦しい選択が迫られ、やむを得ず厳  
しい予算となりました。

こういう予算状況ですが、グループホーム入居相談は昨年度末から今年度に入り  
増加傾向にあることから、ピアーズ5号館の計画を進めることになりました。今秋  
以降場所の選定等具体的に実施することになります。

グループホームネット香川は、障がいがあっても安心して「普通の生活」が送れ  
るよう、住みかと生活支援を提供しています。利用者がここでの生活をベースに地  
域とのかかわりのなかで主体的に希望を持って暮らしていけるよう支援を続けてい  
く、この方向性が変わることはありません。

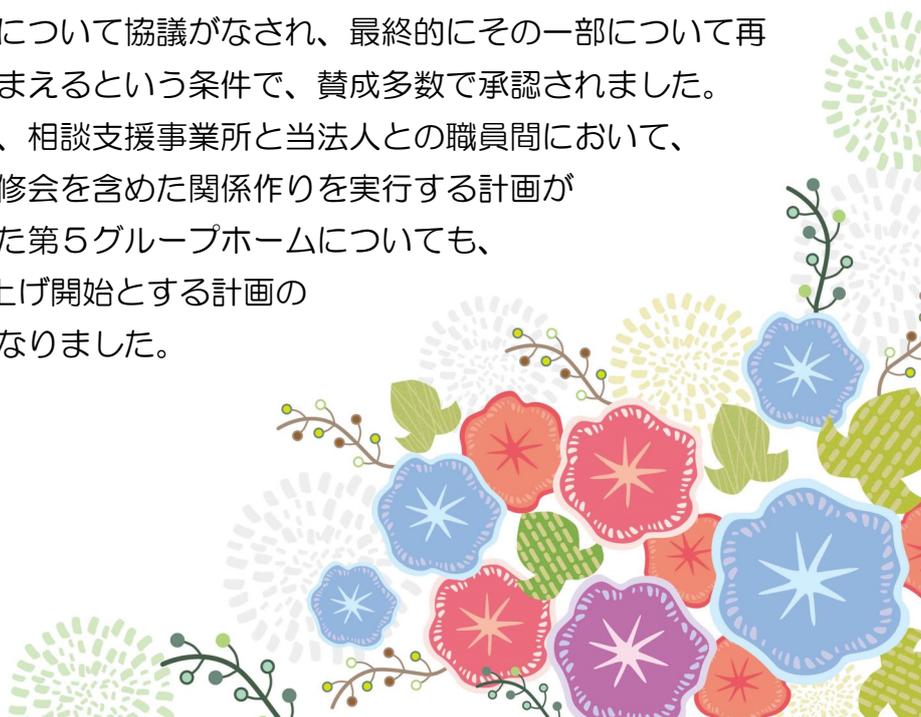
## 総 会 報 告

事務局員 岩佐 亜紀

2019年6月19日（水）午後7時半より、今年度から移転した成合町の当法人事務所にて、2019年度定期総会を開催しました。正会員21名のうち20名の参加（出席・委任状）をもって無事に終了いたしましたので、内容を大まかにご報告いたします。またこの場をお借りし、改めまして会員の皆様、関係者の皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

まず2018年度の事業報告と収支決算報告があり、問題なく承認されました。下半期には、現場支援においてのホームワーカーに対するサポートの検討がなされ、ホームワーカー会議のあり方を見直しました。これまで事務所で月2回ホームワーカー会議を行っていましたが、今後は会議を月1回とし、ホームワーカーに対するサポートを会議のみにとどめず、地域支援部長がサービス管理責任者と一緒に各グループホームを月1回巡回訪問して、支援現場での体験を各ホームワーカーと共有しながら相談していこうという具体的な計画が立ち上がり、早速2019年度からの実施が決定しました。また、広報活動においては機関誌発行のプロセスを担う編集委員会を再編し、定期的に編集会議を開催して、2018年度はリニューアルした誌面で3回の発行を行うことができました。会計監査も問題なく終了したことが報告されました。

さらに2019年度の事業計画（案）と収支予算（案）の提案について、議場でいくつかの点について協議がなされ、最終的にその一部について再度の理事会決定を踏まえるという条件で、賛成多数で承認されました。具体的な目標として、相談支援事業所と当法人との職員間において、勉強会ないし共同研修会を含めた関係作りを実行する計画が確認されました。また第5グループホームについても、2020年1月から立上げ開始とする計画のもと、予算が承認となりました。



## 利用者からの声

### 独り暮らしとA型就労の両立

フェレット巡査

私が通所している就労継続 A 型事業所「サスケ設計工房・高松」は建設図面のチェックを主な業務としている作業所です。とは言いましてもいきなり図面のチェックをやらされるということはなく、建設図面のチェックに必要な CAD※の操作やチェックに必要な建設の知識を教わってから、建設図面のチェックの仕事にデビューします。

私の作業所の一番の特徴は「在宅就労が可能である」ということだと思います。私は部屋で仕事ができる在宅就労の仕組みにはとても助けられています。

ただ、在宅就労だと気が緩まないように注意する必要があります。納期がある仕事なので、締切に図面がそろわないと、かなりいけないことになってしまいます。

そのため、気が緩むことの他に、体調の管理がやはり重要になってきます、ちゃんとしたものを食べないと具合が悪くなってしまう、でも作るパワーがないというときは、ご飯とお味噌汁だけ作っておかずはお総菜にしたり。お掃除は普段はお掃除ロボにお任せにしたり。生活で無理をしてパワーを消費してしまい、具合が悪くなったり、仕事に向けられるパワーが減ってしまっはいけないので。程よい手抜き家事を身に着けることが、病気で体力が低い状態で一人暮らしと仕事を両立するにあたっての一つのコツになろうかと思います。

最後になりましたが、親元にいたころは、在宅就労しようにも家にいることもままならず、また通所するパワーもなくて大変困ったことになっていたのですが、グループホームに入所して在宅勤務でも集中して仕事ができるようになり本当によかったです。

※ CAD とは・・・Computer Aided Design の略。

コンピュータを用いて設計をすること、あるいはコンピュータによる設計支援ツールのこと



## 理事や運営委員のかかわり

2019年度、グループホームの新たな取り組みとして、地域支援部長が各グループホームを巡回するということが決定し、4月よりスタートしています。

一方、3月末にホームワーカーが退職した後、次の方の応募がすぐになかったので、不在の間に入居者の支援が滞らないように、2ヵ月ほど理事がホームワーカーとして、グループホームに入りました。

理事や運営委員は、現場の一步後ろから見守り、支援するということで20年やってきました。

直接、かかわることによって、入居者の新しい動きが見えたり、グループホームの新たな課題が見えてきたりとこれまでと違った様子が増えてきました。

入居者からも、この状況についての感想や意見が寄せられました。

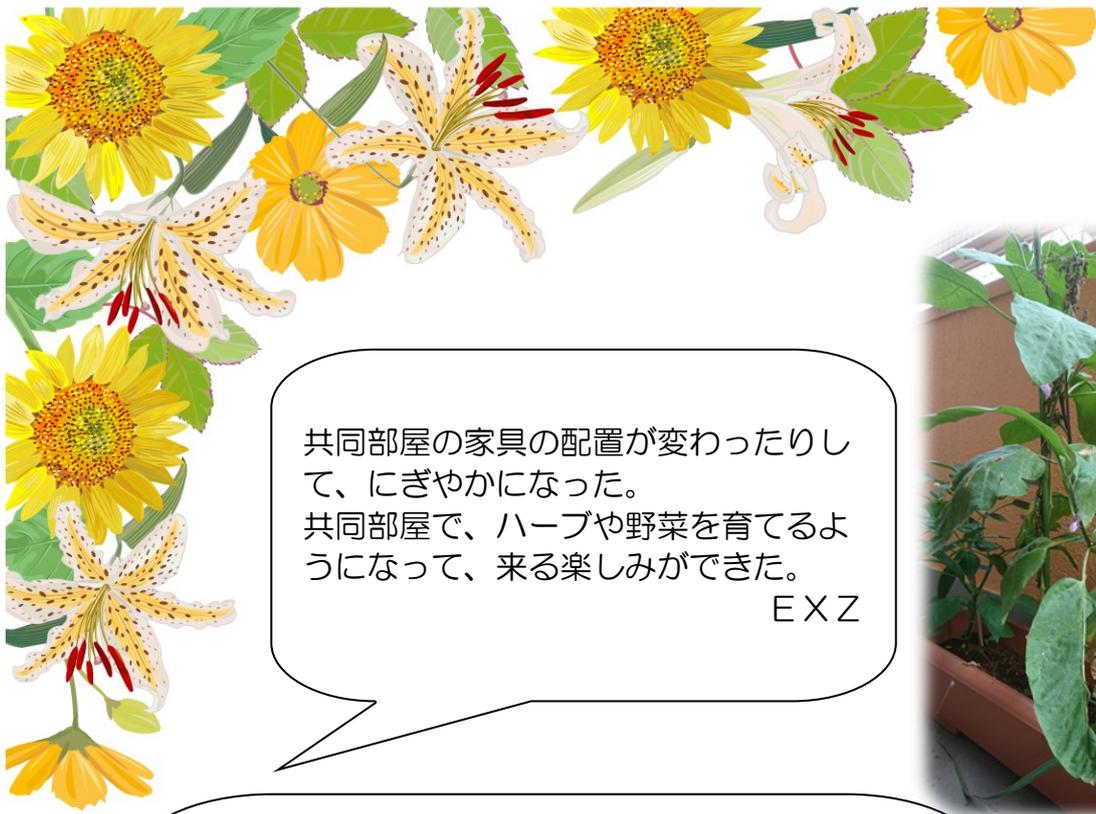
来たときに、柁さんがおやつを持って来てくれて、  
みんなで食べる機会ができた。  
にぎやかになって、人がいることが増えて、  
共同部屋に来やすくなった。  
露口しげる

いろんな人が、グループホームに出入りするようになった。  
自分は、部屋にいることが多いけど、声をかけてくれて、出る機会が増えた。  
非常食のパンとおかゆを食べたけど、あまりおいしくなかった。  
M



入居者のご家族様から、  
たくさんのスイカをいただきました。  
ありがとうございました。





共同部屋の家具の配置が変わったりして、にぎやかになった。  
 共同部屋で、ハーブや野菜を育てるようになって、来る楽しみができた。  
 EXZ



グループホームにどんな人がかかわってくれているか、知らなかった。  
 イベントなどで少しずつ顔なじみになったらいい。  
 最初は、何をしゃべったらいいかわからなかった。何か言うと怒られるのではないかと思った。  
 いろいろとありのまま話を聞いてもらってよかった。  
 B



いちご狩り 森のいちご

花見 玉藻公園

## ■ 新人ホームワーカーのあいさつ

### グループホームのホームワーカーになってみて

鍋谷 明子

5月に採用面接を終えて、初めてグループホーム（以下、GHという）に見学に行き、その後すぐにホームワーカーとして勤務するようになった。

それまでのGHに対する私のイメージは、利用者それぞれの個室があり、ある程度の自由時間があるが、あくまで事業者管理の元での自由な時間という状態。入所型の福祉施設との違いは何だろうか考えてしまう。現在、高松市内に数多くのGHが点在しているが、きっとどこもそんな感じなのかな、とぼんやり想像して、ピアーズのGHに来た。するとその予想はいい意味で裏切られた。

ピアーズは、当事者・入居者主体なのである。しかもそれがスローガンやお題目になっておらず、実態も入居者全体で全てのことが進み成り立っている。当たり前のことのように、実際にやってみようと思うと存外に難しい。なぜなら、人の世話を焼くことは善とされているのがこの世の中なので、ホームワーカーの実質的な仕事もその価値観に影響を受けることになる。でもそうすると、入居者の生活上の何もかもを代わりにやってしまうことになる。それは一見すると正しい「支援」かもしれないが、彼らの本来の力やできることを奪い、生活そのものを奪っていくのではないかと思う。

かといって全く何もしない訳ではない。入居者の話を聴き、困りごとを聴き、一緒に『じゃあどうしようか?』と考える。一緒に悩む。そこから次にどうするかが見えてくるのだと思う。

このグループホームネット香川の活動理念に市民主義がある。初めて聞く感覚の言葉で、でも理解していくうちにとてもしっくりくる感覚であると思った。あくまで「市民」としての顔でお互いに協力しあっていこうとする原則。GHでのことに限らず、人の生活においてとても大事な感覚だと気付かされた。



## 事務局だより

事務局 増田 周作

事務局が、円座町から成合町に移転して、早や3ヵ月が過ぎました。

移転した直後は、年度始めの業務、総会の準備、新たな職員の募集等の対応に追われたりと2019年度は、まだ余裕がないのが現状です。

しかし、そうは言っても入居者の生活は止まることはありませんし、時間は待つてはくれません。理事、職員が力を合わせて日々の業務を遂行しています。

新しい事務局長が就任して、日々近くでサポートを受けながら、業務を行えるようになったので、ちょっとずつではありますが、慌ただしいだけではなく、地に足が着いた状態で、前進しているように思います。

2019年度は、運営資金面における助成金の積極的な活用についても具体的に検討を進めています。会員の皆様へご寄付による協力も同時に呼びかけさせていただいています。今年度もご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

2019年度の総会が終わり、今年度の広報活動の計画案が承認されました。

それに従って、機関誌二ズレターの内容をより充実させ、関係機関等広く地域社会に当法人の活動をお知らせするとともに、精神保健福祉に関する普及啓発を行っていきます。

すべての人たちが偏見のない社会で普通に生活できるには、どのような活動をしていけばいいのか、どのような社会資源があればいいのかもしっかり考え、そして、病気や障害を隠さなくてもいい地域社会であれば、どんなに住みよいかを考えていきます。

皆様のご協力をいただきながら、編集委員一同協力し、心新たに活動してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955